

令和5年度第3回習志野市発達支援サポートネットワーク会議 議事記録

1. 開催日時 令和5年12月14日(木) 午後2時30分～午後4時00分

2. 開催場所 市庁舎5階 会議室5-3

3. 出席者

【副会長】 こども部(こども保育課) 主幹 清水 郁乃

【委員】 健康福祉部(健康支援課)主幹 堂前 幸子(代理出席)、障がい福祉課 係長 小森 俊、
本大久保第二保育所 所長 竹口 典子、秋津保育所 主任 越川 佳子、
津田沼幼稚園 園長 森谷 美枝子、大久保東幼稚園 教頭 中村 実千代、
子育て支援課 副主査 福田 大志、こども部(児童育成課) 主幹 上野 智子、
あじさい療育支援センター 主査 秋山 菜穂子、ひまわり発達相談センター 主査 續 竜太郎
欠席4人

【事務局】 ひまわり発達相談センター 所長 内村 幸輔、主任指導員 橋詰 信一郎、
主査補 田中 真由美、副主査 浅倉 真紀子、主任主事 大泉 晴香

4. 議題

(1) 令和5年度の障がい理解を深めていくための各課の取り組みについて
(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

(2) その他

5. 会議資料

なし

6. 議事内容

(1) 令和5年度の障がい理解を深めていくための各課の取り組みについて
(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

公開講座、発達支援基礎研修等について

- ・ひまわり発達相談センター主催の公開講座は、当日配布資料のとおりである。
- ・発達支援基礎研修は、保育施設や障害福祉サービス事業所の職員等を対象に、ひまわり発達相談センターの各専門職が講師となり講義を行った。
- ・発達支援基礎研修の後、参加した職員より園で情報共有を行い、職場内でも大きな学びとなった。

各部署の取り組みについて

- ・市役所のこども部フロアでは、きらっといっぽの会のポスターの掲示、チラシの設置など、来庁者の目にとまりやすい形を工夫している。今後とも継続的に市民に向けて提示していきたい。
- ・習志野市障がい者地域共生協議会の全体会にきらっといっぽの会を招き、各委員にチラシとポスターを配布した。障害福祉サービス事業所へポスターの掲示を依頼した。
- ・きらっといっぽの会が主催するボッチャ体験会に、障がい福祉課が後援という形で参加した。その他に、家族会からは支援充実の要望や、会員を増やすためにチラシの配布を依頼され協力をしている。
- ・広報誌に「ひまわり職員のひとりごと」を掲載している。詳しい解説をホームページへ順次掲載しているほか、チラシ、市 X(旧ツイッター)、LINE を活用してより広い周知を考えている。

- ・健康支援課では、今年度はオンラインの活用などの取り組みが多かったが、対面で保護者と関わるのが子どもの発達にとっても大切だと実感した。来年度に向けて体制を考えていく。
- ・国から、全国の市区町村における5歳児健診の実施が打ち出されている。健診ありきではなく、困りごとがなるべく小さく済むような気づきや、支援を言い出せない保護者が声を上げる機会につながっていく健診でなければ意味がないのかなと考える。今後、関係課と相談をしていきたい。
- ・園の先生たちが苦心している支援の必要性についての伝え方は、5歳児健診でも配慮が必要だと思う。
- ・集団で行う活動への参加が難しい子もいるが、その子なりのやり方で表現活動を楽しめるように、見守る保護者の心情も大切にしながら理解が広がるよう丁寧な取り組みを続けている。
- ・ひまわり発達相談センターの職員には、支援に悩んだ時に具体的なアドバイスや理論的な裏付けをもらえてありがたい。
- ・支援が必要な子とそうではない子とでは、境界線があるわけではない。一人ひとりに合った支援をすることが大事だと思う。大人とのかかわりは大事なので、経験の浅い先生を育てていくことも大切である。
- ・「ひまわり職員のひとりごと」のチラシを、「子育てふれあい広場」で配布できるといいかなと思っている。
- ・虐待が疑われる御家庭について、各部署より子育て支援課へ情報提供があり連携している。
- ・私立の園に通い、「支援が必要な子」が少ない環境にいた子どもが小学校へ上がったときに、初めて「支援が必要な子」に会い戸惑ったという話を保護者から聞くことがある。
- ・支援が必要な子に対して、担任の先生の冷静なかかわりやほめる等の様子を周りの子も日常的に見ているため、支援が必要な子のことを説明しなくても、クラスの子は認めているように思う。
- ・児童育成課では、放課後児童会の先生の障がい理解に力を入れている。職員研修の際、きらっというぽの会の方をお招きしたり、特別支援学校の先生に講師をお願いしたりした。ライフサポートファイルを保護者へ勧めるまでは至っていない。

ライフサポートファイルについて

- ・「ライフサポートファイル作ろう会」を習志野市障がい者地域共生協議会の児童部会で来年2月に開催予定である。放課後等デイサービス事業所の職員に来てもらい、相談できるブースも設けることで、保護者を集めたい。事業所でファイルが浸透していないので、職員に知ってもらう目的もある。
- ・障害福祉サービスにおける更新の勧奨通知に、ライフサポートファイルのチラシを同封した。
- ・ひまわり発達相談センターでは、「ライフサポートファイルお持ちですか」と書かれたイラスト付きのステッカーを作成した。各部屋に貼ることで、どちらかという支援者の意識向上を目的としている。
- ・支援者がファイルの意味を理解しているのか疑問に思うところがあるので、保護者との面接等を通して、ファイルを活用し、子どもの成長の振り返る機会にするとよいのではないかと考える。
- ・保護者より、「ライフサポートファイルがあり、子どものこれまでの経過を説明することが出来た」という話を聞いた。また、計画書等の様々な書類やメモ類をファイルにとじて活用している保護者もいた。

進学時等の引き継ぎについて

- ・乳幼児個別支援計画を作成しているお子さんは、保護者と年内に進学先を決めるという目標で進めてきた。今後は学校へ引き継ぎをしていく。乳幼児個別支援計画を作成していないお子さんで、就学直前になり不安が高まる保護者もいる。そのようなお子さんを含めて、園で実践していた配慮などを、学校へ具体的に引き継いでいく。
- ・子育て支援課では毎年4月より、ケースとして持っている子どもの所属先に訪問し、情報を個別に共有している。新たに情報もらい、ケース化して対応することもある。
- ・健康支援課では、転出入時に市町村間で支援が必要なお子さんについて、文書で引き継ぎをしている。療育に通っている場合は、そこで引き継ぎ書を作成し、保護者へ渡している。
- ・放課後児童会では新1年生の入会受付を行っている。特別な支援が必要な子や、保護者が心配してい

る子については、面接を行っている。確認事項がある場合は、所属園に個別に話を伺いたい。

(2)その他

第2回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会は、令和6年1月29日(月)に開催予定である。